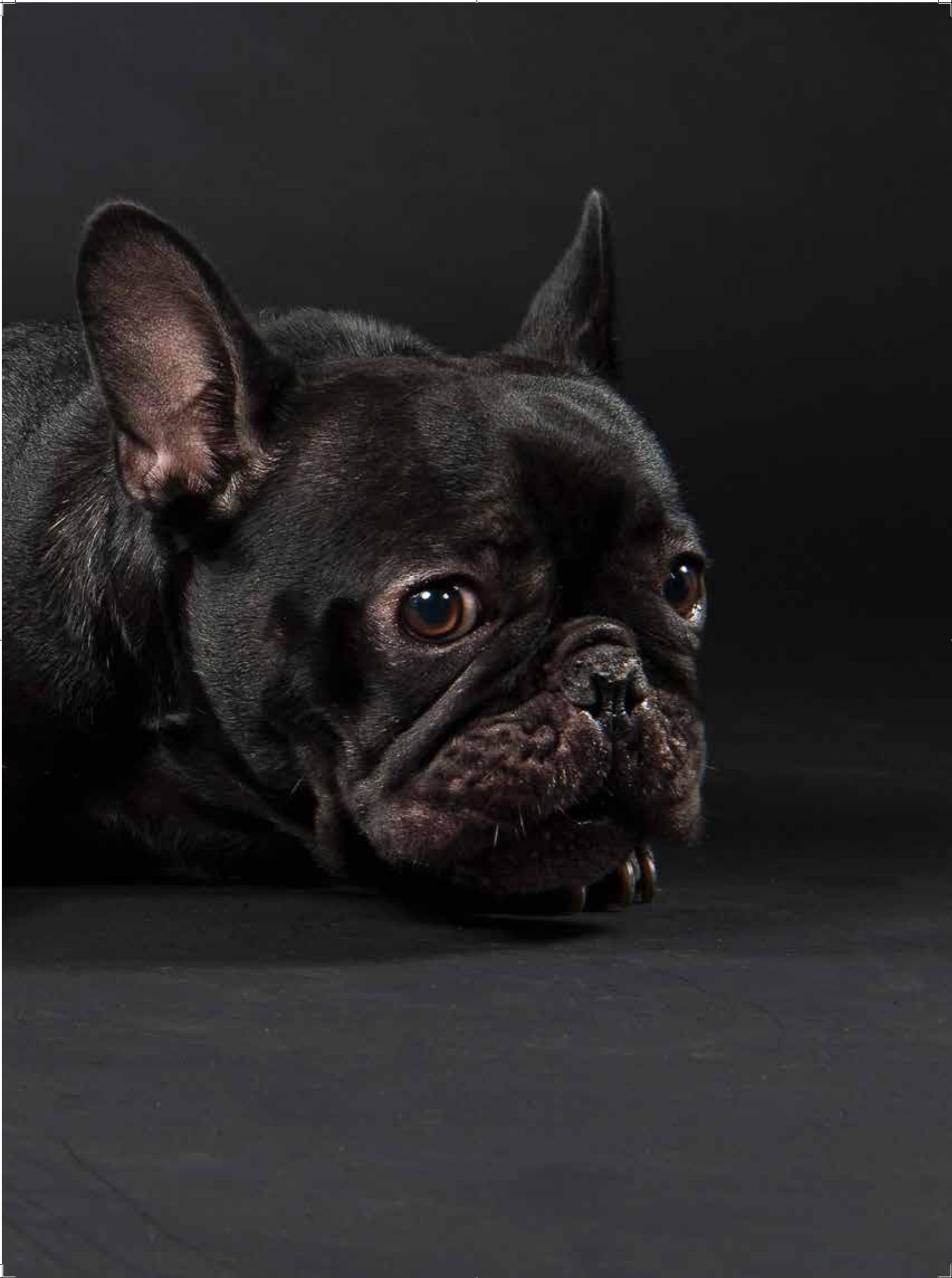












フレンチブルドッグ

最新型!

完全図鑑

……フレンチブルドッグってどんな犬?

そんな素朴な疑問からもう一歩踏み込むことで、飼い主の世界は広がっていきます。
特徴をおさえ、個性を知り、知識を得る。いつのまにか、なによりも大切な存在となる。
最新型のフレンチブルドッグ完全図鑑、スタートです。

photo/Shingo Uchiyama (P4-29) Yasuhiro Sakashita (P44-58) Ichigo Amaki (P44-58)
text/ Hatsun (P4-29) Chika Yugawa (P30-43) Kyone Usui (P44-58) Illustration/ Kiyoc
model/ Shingo, Okome, Ojirou, Kotetsu, Minny, Fuu, Momoko, Hanakoko, Guu



その外見から、まるで人間としか
思えないような表情、行動、そ

してポジティブな性格が飼い主を魅了
するフレンチブルドッグ。人は、元気
な人、明るい人、面白い人の周りに集
まります。その人という楽しいから、
笑顔になれるから、腹を抱えて笑える
から、その人の周りに集まります。フ
レンチブルドッグに魅せられるのは
きっとその感覚に近いのかもしれない
さん。フレンチブルドッグの側にいるだ
けで、楽しくて笑顔になって腹を抱え
て笑う。それが日常になったら人は変
わります。だから、フレンチブルドッ
グに出会おうとフレンチブルドッグ中心
の人生に変わってしまう人が続出する
のだと思います。

フレンチブルドッグのルーツについ
てはさまざまな説がありますが、およそ
1860年頃にフランスへ移民し

てきたレース職人たちが、イギリスの
小型ブルドッグをフランスに持ち込
み、テリアやパグなどの他犬種と交配
させ作出されたのが、フレンチブル
ドッグだと言われるのが有力です。そ
の後フレンチブルドッグはアメリカに
も持ち込まれ、熱心に繁殖されました。
1898年には、ニューヨークのウォ
ルドルフ・アストリア・ホテルでフレ
ンチブルドッグの単独ショーが開催さ
れ、現在のスタンダードによるフレン
チブルドッグが公開されました。その
上品で優雅なショーは、お金持ちの観
衆を魅了し、フレンチブルドッグはア
メリカ人たちを完全に虜にしていま
います。かの有名な大富豪、ロックフェ
ラーがフレンチブルドッグをこよなく
愛したというのも有名な話です。
フレンチブルドッグのカラーは大き
く分けて、ブリンドル、フォーン、ク

1 フレンチブルドッグは どのような犬なのか

リーム、パイドの4種類です。それぞ
れに色の濃淡や模様の入り方がさまざ
まで、バラエティーに富んでいます。
ブリンドルは黒ベースに褐色などの明
るい差毛が入る毛色。差毛が少なく
黒光りして見えるものから、差毛が豊
富に入るタイガーブリンドルと呼ばれ
るタイプもあります。フォーンは茶色
ベースの毛色。ゴールドのような明る
い色から、赤茶色で濃いレッ
ドフォーンと呼ばれるタイプ
もあります。顔周りが黒いので
ブラックマスクとも呼ばれま
す。クリームは、白に近いも
のからベージュに近い濃いも
のまである毛色。アイライン
は黒っぽくしっかりと出ます。
顔の表情がわかりやすい毛色
でもあります。パイドは白を
ベースにブリンドルやフォ
ーンの班が頭部や体に入る毛色。
班は細かくなく、大きなもの
が理想的です。牛柄模様のよ
うな愛嬌ある毛色です。



Brindle



Fawn



Cream



Pide



してしまっても大丈夫なサイズにまで細かく切る、すりつぶすなどしてから与えるようにしてください。また、おもちゃなどを口に入れてしまった場合は無理矢理取ろうとしないことです。犬はせっかくのおもちゃを取られまいとして、口に入れた異物を飲み込んでしまうことがあります。無理に取り上げるのではなく、犬が他に興味のあるものと交換する形で口から出させるとよいでしょう。さらに、留守にするときや目を離すときに、犬が丸飲みしたり、のどにつまらせる恐れのあるものは犬の手が届くところに置かないようにするなど、犬が誤飲をしてしまうリスクを人間側が気をつけて減らしてあげるようにしましょう。

2 フレンチブルドッグとの 出会いかた

フレンチブルドッグの子犬を迎えたいと考えたときに、選択肢は大きく分けて2つあります。ペットショップから迎えるか、ブリーダーから迎えるか、どちらかになると思います。保護犬を迎え入れるというのもありますが、それはまた特別なケースでしょう。

ペットショップの場合、基本的に子犬の仕入れはオークション会場（犬の競り市）からです。生後間もない子犬は環境の変化でストレスを感じやすく、免疫力も低いので、病気にかかってしまうことも少なくありません。そんな中、業者を通して流通する場合は、輸送にかかるストレスだけでなく、オークション会場やペットショップの出入りなど、ウィルスや病気のリスクもあります。また、オークションに出荷される子犬は、親兄弟から早い時期に引

き離されることが多いため、適切な社会期を知らずにショーケースに並びます。その結果、ムダ吠えや噛みつきなどの問題行動につながる可能性も高くなってきます。

そういった点もふまえ、フレンチブルドッグのような犬種はブリーダーから迎えるのがベストでしょう。ブリーダーのもとで、生後60日前後までの社会化期を親兄弟と共に過ごした子犬を迎えるべきだと思います。社会化期に兄弟喧嘩をして、噛んだり噛まれたりして痛みを知り、母犬やブリーダーから愛情をかけてもらうことで生き生きした子に育ちます。氣にいった子犬がいたら、まずブリーダーの所に見学に行き、子犬はもちろん、兄弟や親犬とも触れ合ってみるべきです。そして、子犬を迎えるにあたり不安なことやわからないことなどを、育てたブリー

ダーから直接話を聞いて購入を検討するのがいいと思います。

子犬探しをするときは、可愛い子を探したい、自分のタイプを見つけないということだけに必死になってしまうものです。それは誰でも同じことです。子犬は迎え入れてからが本番なわけです。実際に子犬は、迎え入れてからが、大変なことやわからないことがたくさん出てくるものです。そんなとき、育てたブリーダーに直接相談できる安心感というのは非常に大きいものです。たとえば、子犬の体調に気になることがあったとして、動物病院にいか迷うような時は、まずブリーダーに様子を伝えて最善の方法をアドバイスしてもらってから、その状況に対処していくほうが良いわけです。そうやってブリーダーと親戚付き合いのようになっっていくことが、子犬を迎え入れ、暮らしていくベストな形だと思います。ブリーダーもブリーダーで、苦労して育てた子の成長を知れるのは幸せなことですから。



フレンチブルドッグの病気豆知識【誤飲】 飼い主さんの多くは、犬がゴミをあさったりすることに関してはきめ細やかに目を配っているのですが、ゴミの誤飲による被害は比較的少ないのですが、自分が与えるものに関しては気がゆるみがちになってしまうようです。例えば、犬にあげるおやつや果物の大きさは人間が食べるのには問題のない大きさでも犬にとっては大きすぎることがあります。大きすぎる食べ物を丸飲みしたせいで、のどや食道に張りついてしまったり、詰まらせてしまうケースが最近増加傾向にあるようです。予防のためには、少し手間かもしれませんが、犬が万が一丸飲み

3 フレンチブルドッグの オスメスの特徴

オスメスの特徴としては、個体差があるので平均的なお話にはなりません。まず外見적으로는オスはメスより顔が大きくなり、胸も深く、腰にかけてくびれができるので、体のラインにメリハリが出ます。メスは、オスよりひとまわり顔が小さく、体のラインはどちらかというとストリートです。いわゆるフレンチブルドッグらしさや雰囲気を想像される方は、オスの形が多いと思います。体重の平均はオスが10〜13キロでメスが8〜11キロくらいです。見た目は小さいですが、筋肉質なので抱きかかえると重い印象だと思っています。性格も個体差がありますが、オスだから気が強いとかメスだから穏やかだということはありません。平均的にはオスのほうが忠誠心が強く、人間の後をずっとついて回るような甘えんぼうな子が多いかもしれません。メ

スのほうはどちらかというと、クールでマイペースといった印象があります。それから皆さんが一番気にされるのが、マーキングや生理（ヒート）のことです。マーキングはする子としない子がありますが、迎えた最初のしつけが一番大事だと思います。「トイレはここ」と覚えれば、家の中ではマーキングしない子も多いです。最近では足をあげておしっこしてもいいように、L字型のトイレやコの字型に囲まれたトイレなど、色々販売されています。また、トイレも1日2回外に散歩（5〜10分程度）に行ける環境でしたら、成犬になると外に出た散歩のときにしかしなくなる子も多いので、お部屋が汚れたりするのも1歳くらいまでだったりします。その2回のうちにおしっこもうんちもすませるリズムになると、人間のほうは非常に楽になり

ます。ただ、台風や真夏、そして老後のことも考えると、お家の中のトイレは必ず作っておいたほうが良いでしょう。お家の中でする場合は、「トイレはここ」と覚えさせておくことが大事です。

生理（ヒート）は生後8ヶ月〜1歳半くらいで1回目がかかることが平均的です。その後は6ヶ月〜8ヶ月おきるのペースで、期間は2週間〜3週間くらい続きます。ただ、その時々によつてヒートの長さも違いますし、血が出ている期間もまちまちです。この期間はお部屋が汚れて大変なので、サニタリーパンツなどを履かせることをおすすめします。

乾かしてあげましょう。次に重要なのは食事です。アレルギーをもつ犬にとって、摂取する脂質を選ぶことはとても重要です。牛肉や豚肉に含まれる飽和脂肪酸を多く摂ると、体内で皮膚の炎症を促進する物質が産生されて、症状を悪化させるといわれており、一方、魚に多く含まれ、炎症を抑える役割をする必須脂肪酸のオメガ6、オメガ3を摂取することは皮膚トラブルの回避に有効だと報告されているためです。アレルギーをもつ子には、こうしたフードを選択して与えると良いでしょう。また、アレルギーを引き起こす原因となるアレルゲンに出来るだけ接しないように環境を整えることも大切です。



フレンチブルドッグの病気豆知識【アレルギー・皮膚疾患】 皮膚の症状を和らげるには正しいスキンケアが不可欠であり、なかでもシャンプーで肌を清潔に保つことはとても大切といえます。ただし、シャンプーは医師に相談しながら慎重に選びましょう。というのも、例えば角質を強力に落とすタイプのシャンプーは、肌のバリア機能が低下して肌が乾燥している子に使うと、肌の油分が取れすぎてしまって、乾燥をひどくしてしまうからです。また、生乾きのまま放置しておくと、カビが原因となる皮膚トラブルを起こしやすくなるので、扇風機やドライヤーをつかって、地肌からしっかり

4

フレンチブルドッグの遊び 〜楽しませるということ

フレンチブルドッグの子犬は遊ぶことが大好きです。「この人」と

と楽しい！」と子犬に慕われることが、飼い主として信頼してもらえるコツです。遊びながら物を引っ張ったり、追いかけたりという犬の本能を満たしてあげれば、ストレスも減り、いたずらも少なくなると思います。ただ気をつけたいのは、遊びをはじめのも終わりにするのも人間主導にすることが大切です。例えば、子犬がケージの中で「遊んで！遊んで！」と吠えた時に出て遊びはじめたりすると、吠えたことでケージから出してくれて遊んでくれたと認識してしまいます。ですから、遊びをはじめるときは子犬が落ち着いているときにしましょう。遊びを終わりにするのも、子犬が飽きたり疲れたりする前に、人間主導で終わりにするようにしてください。それから、子犬

をお家に迎え入れた日から2〜3日は、かまひ過ぎたり遊び過ぎないようにしたほうが良いと思います。子犬は親兄弟のもとを離れて新しい環境になるわけですから、特に迎えた当日はゆっくり寝かせてあげるようにしましょう。

遊び方の注意点としては、フレンチブルドッグは骨格構成上、脊椎と四肢関節が強いほうではありません。室内で遊ぶ場合など、床が滑りやすい環境ですと関節に負担がかかるので、滑らないように工夫を施してあげてください。グリップの利かない足場で遊ばせても、何ら運動にならないばかりか、足腰を痛めたり、積み重ねによって関節疾患が悪化する可能性があります。例えば、ボールを投げて回収させるような遊びは、ボールをキャッチする際に急ブレーキをかけ、関節への負担が大きくなります。ソファや高い段

差から飛び降りるのも同様に負担がかかります。また、子犬と成犬など体重差があつて遊んだりする場合は、膝蓋骨への負担や脱臼の恐れもあるので、激しくからませないようにしましょう。もちろん、神経質になりすぎることはありませんが、気をつけることでトラブル回避につながりますので覚えておきましょう。

子犬は、2回目のワクチン接種（土地柄によつては3回目のワクチン接種）が終わつてから10日ほど経ちましたら、いよいよお散歩デビューです。フレンチブルドッグはそれほど運動量が必要とする犬種ではありませんが、ストレス解消や肥満防止も含めて、1日2回、10分くらいずつ散歩してあげると良いと思います。散歩では通りすがりの人に撫でてもらったり、他の犬と出会って挨拶したり遊んだりすることで、犬の社会の付き合い方を忘れずにいられます。フレンチブルドッグは暑さに弱い犬種ですから、暑い季節は早朝や日没後の涼しい時間帯に散歩しましょう。7月〜8月の真夏のピークの時期は散歩自体を控えたほうが無難です。

する。散歩中や留守番中でもたっぷり飲める量の水を用意しましょう。③散歩中にぬるま湯を入れた霧吹きで全身に水分を振りかけ、気化熱を利用して体温を下げるようにする。このとき注意したいのは、冷水をかけると逆効果になるということです。冷水をかけられると体表の毛細血管は熱を奪われまいと収縮するため、かえって熱をこもらせることになってしまいます。そのほか、直射日光を浴びさせたり、風通しの悪い場所や気温の高い場所に長時間放置することは絶対にさけましょう。



フレンチブルドッグの病気豆知識【熱中症】 飼い主さんが熱中症からフレンチブルを守るために覚えておきたいポイントは3つ。①少しでも暑い日にはお散歩は控える。夏の暑い日は無理に散歩に行かなくて大丈夫です。春先のゴールデンウィーク前後から気温や室温に気を配りたいところです。目安とする室温は23～25℃。エアコンを使用したり、換気をこまめにするなどして愛犬を熱中症から守ります。また、電気代がもったいないと感じるかもしれませんが、愛犬の命を熱中症の脅威から遠ざけるためには留守中でもエアコンは点けっぱなしにするのがベストです。②水分補給をしっかり



～35パーセント、不妊・去勢手術をしていない場合でメス25～35パーセント、オス20～30パーセントとされています。また、もしもお散歩中に犬が呼吸困難で倒れてしまった場合には、慌てずに落ち着いて次のように処置をしましょう。まず、舌を引っ張りだして気道を確保します。次に上昇してしまった体温を下げるために水をかけ続けて体内の熱を発散させます。保冷剤などを用いて、首、股、脇といった太い血管が通っている部分も冷やしてあげるとさらに効果的です。

お

散歩デビューでは、ほとんどの場合、立ち尽くすだけで歩いてくれません。もし歩いてくれたとしても、初日から散歩と呼べるほどは期待できないと思います。ただ、そんな場合も無理にリードを引っばって歩かせようとするのはやめましょう。子犬は骨格が完全にはできあがっていないので、とても負担になってしまいます。歩かない場合は、子犬の少し前に行つて子犬の名前を呼んだり、「おいで」と優しく声をかけ、ついてきたら大げさに褒めてあげましょう。歩かないからといってすぐに抱いてしまうのも良くありません。もし抱くのなら、家を出るときから抱いたまま50メートルくらい進んだ場所で下ろし、家に向かって帰る方向に歩かせようとしてみるほうがいいでしょう。しつけ全般も同じことですが、散歩も焦らず少しずつ慣

らしながら、距離を長くしていくようにしましょう。

成犬になると平均してメスで9キロ前後、オスで12キロ前後になりますから、散歩での引く力も非常に強くなります。子犬は生後6ヵ月くらいから1歳くらいにかけて本格的に体ができあがってきますから、この時期くらいから、散歩時は飼い主の左側を並んで歩けるようにしつけてあげることが大切です。

リーダーウォークの基本ですが、飼い主の主導による歩き方を覚えさせるために、例えば子犬が前に行こうとしたときに飼い主がリードを引っ張るのではなく、向きを変えて歩き出します。もちろん初めから上手くはいきませんが、それを何回も繰り返すうちに、飼い主を見ていないと違う方向に引かれることがわかりますので、自然とアイ

コンタクトがとれるようになり、飼い主といっしょに歩くようになります。子犬に感じてもらう、考えてもらうようにするのが大切です。

具体的な引き運動（散歩）に適しているのは、トロット歩様でのリズムカルな散歩です。トロット歩様の動かし方は、左後足と右前足↓右後足と左前足というように、斜め向かいの足同士2本がペアとなって一緒に動きます。ドッグショーなどでハンドラーが引いて歩いて見せているのがこの歩き方です。急がず、トロット歩様が乱れない範囲でリズム良く、散歩目的地を目指してみてください。時間にしたら、10〜15分もやれば十分でしょう。あまり長時間の運動は、筋肉まで痩せさせ、関節への負担も考えられますので十分注意してください。もちろん運動量には個体差もありますので、オーバーワークにならないように、自由運動と引き運動をバランスよく組み合わせさせてみてください。

5

フレンチブルドッグの散歩、運動



フレンチブルドッグの病気豆知識【短頭種症候群】 飼短頭種症候群の症状を悪化させる原因として「肥満」「興奮」「高温多湿」が挙げられますから、症状の発現を予防するためにはこれらの影響を最小限に留めることがポイントとなります。たとえば、飼い主さんが愛犬のためにすぐに実践できることには、犬の体重を増やさないことがあります。太っていると、のどの空間が押し縮められて、よりいっそう苦しくなるためです。愛犬が肥満かどうかを調べるには、日頃から体重や体脂肪の増減をチェックしておくことが大切です。体脂肪の目安は、不妊・去勢済みの場合でメス・オスともに25



け下りたり、ソファに飛び乗ったり飛び降りたりしていませんか。活発で元気いっぱいところが愛らしく魅力のフレンチブルですが、実はこうした少しの段差の上り下りが関節への負担になっています。それほど神経質になることはないかもしれませんが、楽しくなって興奮状態になった犬をコントロールして、危険から回避してあげられるのは飼い主さんだけです。可能ならば、しつけの三大要素である「おすわり」「ふせ」「まて」を犬がどんなに興奮していても指示できるようにしておくことで安心ですし、病気の予防にもつながります。

子 犬の頃からグルーミングは積極的にするようにしましょう。最初から色々やろうとすると驚いて嫌がるので、まずは子犬を迎え入れてから、スキンシップをたくさんとっておくことが大切です。日頃からスキンシップをとり子犬に触ってあげること、子犬は人への安心感や信頼感を覚えます。

スキンシップで子犬の体のどの部分に触っても嫌がらないようにしておく、グルーミングがとても効率良くなります。犬は耳や口、お尻や足先などの敏感な部分はあまり触られたくない部分ですが、普段からマッサージをしたり、おやつを使ったりと、徐々に触ることに慣れさせていくようにしましょう。スキンシップは子犬が遊び終わって落ち着いたときや、ごはんを食べた後でのんびりしているときが良いと思います。ただし、嫌がることをしつこ

くすると逆効果になるので気をつけてください。子犬にはグルーミングを楽しくて心地よいものだと思わせたいので、人間のほうも緊張せずにリラックスしてやりましょう。爪切りや耳掃除もそうですが、基本的にトリミング台を使ったほうがスムーズです。

爪切りを初めてやるときは、緊張するかもしれませんが、2人がかりでおこなうと良いと思います。1人がオヤツを口の近くにもっていき、舐めさせたりして子犬が集中している間に、もう1人が爪を切るといった感じですが、爪切りをすると爪の血管を切ってしまう血がでることもありますので、前もって止血剤を用意しておいてください。血が出るのを恐がって爪を伸ばし過ぎてしまうと、爪の血管もどんどん伸びてしまい、長い状態で切っても血が出てしまうようになります。他にも、

爪の伸びすぎは足と地面の接地面のバランスを崩すことになり、犬の体重移動のバランスを崩すことにつながります。足の指が横を向いて変形してしまうこともあるので、子犬のうちからマメに短く保ってあげることがベストです。もし自分でできないようなら、獣医さんやトリミングサロンで一度短く切ってもらってから、自分で挑戦してみてください。

耳掃除はコットンにイヤーローションをつけ、耳の中を拭いていく感じですが、綿棒などを使って綺麗にしたいときは、獣医さんに行ったときに、綿棒の使い方のコツを教えてください。良い方だと思います。わからないままやってしまうと、逆に耳あかを奥に押し込んでしまうことになるかもしれませんので注意してください。

歯磨きも色々なブラシなどが出ていますが、最初のうちにはガーゼを自分の指に巻き、歯磨き剤をつけて子犬の口に入れて、磨いてあげれば良いと思います。慣れてきたらブラシを使って磨いてあげてください。犬用の

6

フレンチブルドッグの お手入れ



フレンチブルドッグの病気豆知識【骨・関節】 飼育間板ヘルニアは、場合によっては麻痺状態に陥ることもあり、犬の生活の質を著しく低下させる可能性をもつ病気です。飼主さんにとって最も大切なことはなんといっても予防を心がけること。そのために見直したいのは、愛犬の生活環境と日常生活での行動です。まず、生活環境ですが、滑りやすいフローリングの床は膝や股関節に負担がかかるので、動物用の滑り止めワックスを塗ったり、カーペットやマットレスを敷いてあげるなどして滑りにくい環境を整えてあげてください。次に、愛犬の普段の生活ですが、階段を駆け上ったり駆

歯磨き剤はゆすがずにそのまま食べても大丈夫です。歯磨きは犬にとっても大切な習慣です。ほうっておくと歯周病になり、膿が出たり、歯が抜けたり、内臓疾患を起こすこともあります。歯周病の原因となる歯石をつけないように、子犬の頃からケアしてあげたいところです。長年かけてついた歯石は、獣医さんで除去してもらうようにしましょう。

シャンプーは冬場は2〜3週間に1回、夏場は1週間〜10日に1回くらいのペースで洗ってあげると良いと思います。必要以上の洗いすぎは、皮膚の炎症につながることもあるので気をつけましょう。犬用のシャンプーを使い、爪を立てないように指の腹でやさしくマッサージをするように洗ってあげてください。同時に肛門腺（肛門の左右の下に臭い分泌液がたまる部分）も絞ってあげるようにしましょう。初心者の方で上手に絞れないようでしたら、獣医さんなどで絞り方のコツを教えてください。コツを覚えてしまえば簡単に絞れるようになります。シャンプーのポイントとしては、注

意書きに書いてある放置時間を守ることです。洗い流す際は、人肌程度のぬるま湯でおしりのほうから徐々に流してあげてください。シャンプー剤が皮膚に残るとかぶれたり、フケ、かゆみの原因になることもあるので、十分にすすいであげるようにしましょう。その後はタオルドライに時間をかけて、念入りに拭いてあげること、ドライヤーの時間も短縮できます。ドライヤーは熱風でのやけどに気をつけて、生乾きにならないよう全身の根元まで乾かすようにします。顔の正面からあてると目をやけどしてしまうので、温風が目にあたらないように、頭の上から低温の弱風をあてるようにしてください。指の股も意識してちゃんと乾かすようにしましょう。

子犬期はトイレシートの上で寝てしまったりすることも多いので、体が汚れたり臭いが付きやすい時期です。その都度シャンプーするのは大変なので、ホットタオルでまめに対応し、臭いが強くなってきたら洗ってあげてください。子犬期は特に風邪などを引かせたくないなので、冬場に洗う場合は日中の

暖かい時間にしてあげてください。

ブラッシングは換毛期ですとラバーブラシ、アンダーコートコムなどを用いますが、普段はタオルで拭いた後に獣毛ブラシで毛の流れに沿ってブラッシングしてあげてください。スリッカーブラシ（細かいピンが並んでいるブラシ）は使用しないでください。皮膚に細かい傷がつき、毛穴から細菌が入りますと毛膿炎や膿皮症になることもあります。ポイントは、必ずコートを湿らした状態でブラッシングすること。スプレータイプのコンディショナー、もしくは水でも構いません。乾いた状態で行うと、滑りが悪いために毛切れや皮膚が摩擦で傷つきます。また、湿っていたほうが無駄毛がまとまりやすく処理がしやすいと思います。無駄毛が多くなると毛色が退色し、くすんだ色になってしまいますので、短毛種のブラッシングは大切です。ブリンドルはピカピカの黒光り、パイドは透き通ったピュアホワイト、フォーンは渋くて深い黄褐色を目指して、楽しみながらグルーミングをしてあげてください。

爪切りのポイント

爪が長くなってくると巻爪などの原因になります。慣れないうちはくれぐれも一気に切らずに、爪の中を通っている血管に注意して少しずつ切っていくてください。もし誤って出血させてしまった場合は慌てずに、コットンと止血剤などで止血すること。そして素直に「ごめんね」と謝りましょう。爪のケアついでに肉球もチェック。ひびわっていたら、蜜蝋やワセリン、ボディオイルなどを塗って保湿してあげましょう。



出来上がり! 爪が丸みをおひいて、地面に着かないベストな状態です。月に1度を目安にチェックしましょう。



爪を切ったときに指で触って、爪先がトケトゲしている時はやすりがけをしましょう。爪割れなどを防いでくれます。



1度で切ろうとすると血管を傷つけてしまうことも。少し切り、確認しながら又少し切るという繰り返しを行っていきましょう。



まずは爪切りが必要かどうかをチェック。爪の先が床に着いていたらそろそろ切るタイミング。

7

フレンチブルドッグの食事について

ごはんの適量は年齢や個体差によっても違います。ドッグフードのパッケージの説明に、体重に対する適量を書いてありますが、これはあくまで目安としてください。毎日管理している飼い主が状態を見極めて、年齢や状態に対する適量を決めるようにしましょう。一般的にわかりやすいところでは、子犬でも成犬でもごはんの適量の目安として、便の状態で判断できます。便がゆるければごはんの量が多く、固ければ少ないということです。見た目の肥満のチェックとしては、犬を上から見た時に胸にくびれがあること、胸部を触ると肋骨が確認できることです。胸にくびれがなく、肋骨も触っても確認できないようでしたら肥満になりはじめていますので注意してください。体重の計り方は、飼い主が愛犬を抱いてあげた状態で体重計に乗り、その後

飼い主だけの体重を計り、引いた重さで確認すると思います。それから、よく人間が食べているものをついと与えてしまう方がいらつしやいます。オスワリをしながら可愛い顔で見つめられたら与えたくなくなってしまいう気持ちは十分にわかりますが、長い目でみると愛犬の寿命を縮めることもありますので、注意してください。そもそも人間と犬では摂取するものが違います。犬には塩分も糖分もあまり必要ありません。塩分の多い加工食品や、甘いお菓子などは肥満の原因になりますし、チヨコレートの成分のカカオに含まれているテオブロミンは、神経を刺激して発熱、嘔吐、下痢につながるものとがあります。またネギ類（長ネギやタマネギなど）も大量に食べると中毒をおこし、血尿や下痢、嘔吐などの症状につながりますので与えないように

気をつけてください。とにかく、人間と犬では食べるものは別であるということのを頭にいれて、犬にふさわしい食べ物を与えるようにしてください。また、手作り食を楽しまれる方もいると思いますが、手作り食で正しい栄養価を摂取させるには飼い主の勉強が必要になります。ほとんどの場合、ドライフードをメインにして色々なトッピング、サプリメントを加える形だとは思いますが、十犬十色ですからこれを食べさせれば良いと一概には言えません。内臓が健康でアレルギーもない場合、秋冬は高タンパク、中脂肪。春夏は高タンパク、低脂肪が望ましいです。冬場に脂肪分が不足しますと、皮膚のトラブルや抵抗力が低下します。夏場は脂肪分を控えるべき犬種です。指の間や顔のシワの間を見て、赤みがあれば脂肪分の摂りすぎです。たんぱく質はオールシーズン、多く摂るべき犬種だと思います。筋肉質で丈夫な身体元になりますから、たんぱく質、アミノ酸は大切です。

おやつをひづめで歯が割れてしまったという子もいるので、どのようなおもちゃやおやつが適しているのかよく考える必要があります。そして怖いのは歯周病。症状としては、歯周病になると、まず歯の表面に歯垢や歯石が付着しているのがみられます。さらに歯肉が赤く腫れたり、口臭がするので飼い主さんはすぐに気づくことが出来るでしょう。病気が進行すると、歯と歯肉の間から化膿液や血が出ているのがみられたり、歯がぐらついてくるので予防と早期発見が大切です。歯周病予防にはなんといっても歯磨きが大切です。1日1回が理想ですが、歯磨き嫌いの子には最低でも1週間に1回は歯磨きをしてあげましょう。



フレンチブルドッグの病気豆知識【目、耳、歯】 愛ピヒが元気で長生きするために大切な「目」「耳」「歯」に関するトラブルは、予防がなによりも大切です。花粉症の時期などは、目がかゆくて自分で引っかいてしまったり、お散歩中やドッグランで他の犬と遊んだり、草むらに顔を突っ込んで遊んでいるときに目に傷を作ってしまうことがありますから注意してあげてください。耳の血腫は外耳炎や耳ダニといった耳の疾患から進行することが多いので、こうした疾患にならないように予防を心がけておくことがポイントです。歯の破損を防ぐためには、硬すぎるおもちゃを与えないことが一番。中には



食欲不振が続いたりすることもあります。高齢の犬の場合は「年だから」で済ませがちですが、本当に年のせいだけなのか、しっかり向き合ってみることが早期発見につながります。そして、異常を見つけたらすぐに獣医師に相談しましょう。がんにかかるリスクが高い7歳以上のシニアになったら、少なくとも半年に一度の定期検診を受けさせてあげることです。1年に2回も検診が必要なのかと思うかもしれませんが、犬の1年は人間の1年とは流れ方が異なりとても早く過ぎ去ってしまいます。もしがんがあった場合、1年気づかないまま放っておくと手遅れになる可能性が高くなります。

最

近では10歳を越えたフレンチブルドッグを「フェアリー期」と呼び、SNSなどで話題になっていますが、とてもよいネーミングです。妖精のような佇まいは、まさに老犬ならではのものですから。

シニア期にまず気をつけたいのは肥満です。犬も人間と同じで肥満があらゆる病気の元です。フレンチブルドッグは、肥満からくる関節トラブルやヘルニアなどが起こりやすい犬種ですから注意しましょう。7歳〜8歳くらいの高齢になってくると、基礎代謝が下がり、消化機能も衰えてきますので、より肥満になりやすくなります。食事、それまでの成犬用からシニアフードに切り替えるのも、この時期が目安になります。フードの形状は、なるべく小粒のものを選んだり、状況によつては子犬の頃にやっていたように、

フードをお湯でふやかして柔らかくしてあげましょう。ただ、ここでも個体差があり、7歳〜8歳くらいでも歯や顎も丈夫で成犬時の若さを保っているようでしたら、フードもカリカリのままのほうが丈夫な歯を長く保てますので、そのあたりも年齢ではなく飼い主の判断で良いと思います。

また、7歳〜8歳くらいになってくると散歩に行きたがらなくなる子もいますが、それも肥満の元です。体が元気でしたらそれまでと同じように散歩にいき、もし歩きが鈍くなってくるようなら、ペースをゆつくりに変えたり、距離を短くしたりと、愛犬の状態に合わせた散歩をするようにしましょう。真上から見たときのお尻の大きさも1つの目安です。お尻が小さくなるのはお尻の筋肉が低下した証拠です。犬は基本的に前足加重で、後ろ足をあまり使

わなくても動けます。そのため、後ろ足から筋力が低下しやすいのです。寝たきりになってしまうこともありますので、お尻が小さくなってきたと感じたら積極的に歩かせることも大切です。

散歩での老化のサインとして、散歩中に止まって歩かなくなることがあります。そんな時、今まででしたら抱き上げるとわがままな子になるので避けていたとしても、高齢による体の負担を感じたなら抱いてあげて良いと思います。抱きながら歩いて景色を見せてあげるだけでも気分転換になり、歩けないことへのストレス発散にもなります。また高齢になると「体内時計のずれ」から夜鳴きや遠吠えをする場合があります。一度夜鳴きが始まると直すのに時間がかかりますから、食事や排泄、体に異常がないのなら、しばらく様子をみて待ちましょう。子犬期の夜鳴きのしつけと同じで、鳴けば飼い主が来てくれると学習して、たびたび鳴くようになる場合があります。大切なのは、「朝から昼は明るく、夜は暗くする」という自然のサイクルを守ることです。

8

フレンチブルドッグの「フェアリー期」



フレンチブルドッグの病気豆知識【腫瘍（がん）】 飼い主さんががんを早期発見するために家で出来ることは、1日1回、10分でもいいので犬とじっくり向き合い、最低でも月に1回は犬の体をやさしく撫でながら、体に異常がないか調べることです。たとえば乳がんは、おなかを撫でるついでに乳房をやさしくつまむようにして、しこりの有無を確認します。体の表面に出来るがんは、体を撫でて確認します。もし「しこり」や「腫れ」のようなものに触れたら、そこから出血したり、蚊に刺された跡みために皮膚が赤く腫れていないかを確認します。また、内臓に腫瘍がある場合には、嘔吐や下痢、



そんな飼い主さんは、今よりも少し先の犬との暮らし方を想像してみると、どのような選択が良いが見えやすくなるのではないのでしょうか。たとえば、犬の今後のライフステージごとに、犬にどのような体の変化が起こり得て、どのような病気にかかりやすくなるのかを考えます。そこに不妊・去勢手術をすることによる犬に対するリスクとベネフィットを照らし合わせてみるのです。また、家族やかかりつけの獣医師とよく話し合ってみることも大切です。

フ

レンチブルドッグは犬というより人間という感覚に近い」。フレンチブルドッグを迎えた方は口を揃えてそう言います。個性も強く、個体によってかなり色々な性格の子がいますので、人間の子どもといっしょにいろいろな感覚になるのだと思います。この数年、テレビや雑誌などさまざまな場面でフレンチブルドッグの愛くるしい姿を見かけます。「フレンチブルドッグと暮らしたい」、そう思うきっかけは人それぞれです。ただ、フレンチブルドッグは体の強い犬種ではありません。皮膚、呼吸器、関節、熱中症などトラブルもよくあります。もちろん神経質になりすぎることはありませんが、フレンチブルドッグという犬種を選ぶなら、「大変さや手間もすべて引くため楽しむ覚悟」を飼い主がする必要があります。なぜなら、

その大変さの何十倍もの笑顔や幸せを、フレンチブルドッグは間違いなく飼い主に与えてくれるからです。「星の王子さま」という有名な物語に、シンプルで強烈な回答がありました。

泣いている王子のところに、キツネが現れる。悲しさを紛らわせるために遊んで欲しいと頼む王子に、仲良くならないと遊ぶことはできない、とキツネは言う。キツネによれば、「仲良くなる」とは、あるものを他の同じようなものとは違う、特別なものだと考えること、あるものに対して他よりもずっと時間をかけ、なにかを見るにつけ、それをよすがに思い出すようになることだという。これを聞いた王子は、

いくら他にたくさんバラがあろうとも、自分が美しいと思い、精一杯の世話をしたバラはやはりいとおしく、自

分にとって一番のバラなのだと悟る。キツネと別れることになり、王子は自分がキツネと「仲良く」なっていたことに気付く。別れの悲しさを前に「相手を悲しくさせるのなら、仲良くならかならなければよかった」と思う王子に、「黄色く色づく麦畑を見て、王子の美しい金髪を思い出せるなら、仲良くなったことは決して無駄なこと、悪いことではなかった」とキツネは答える。別れ際、王子は「大切なものは、目に見えない」という「秘密」をキツネから教えられる。

迎え入れたその日から、あなたのフレンチブルドッグはあなただけを想っています。あなたが仕事をしていても、あなたがテレビを見ていても、あなたがお酒を飲んでいても、あなただけが想っています。あなたのフレンチブルドッグの幸せはあなたの幸せな姿なのです。あなたがフレンチブルドッグという犬種を選んだのなら、腹をくくって幸せにしてあげてください。

9

フレンチブルドッグと暮らすよろこび



フレンチブルドッグの病気豆知識【去勢・不妊】 去勢手術や不妊手術は計画性のない繁殖を避ける目的や、生殖器に関連した病気を治療したり予防したりするために行われます。私たちは普段、去勢手術、不妊手術と呼んでいますが、それぞれ精巣摘出手術と卵巣摘出手術あるいは卵巣・子宮摘出手術のことをさします。去勢手術、不妊手術ともに医学的な面からみるとさまざまな大きなメリットがありますが、同時にデメリットもあります。 犬の本能を抑える決断をすることにとめらるるを感じたり、大切な家族である犬の体にメスを入れることに抵抗を感じる飼い主さんは多いと思います。